

歴史という教科が好きな人と嫌いな人がいます。歴史は覚えることがたくさんあるから嫌だ、とか、カタカナの名前を覚えられないから苦手だ、とかいろいろな理由をつけて歴史が嫌いな理由を正当化しようとします。けれども、歴史は人間が行ってきた物事の積み重ねです。世の中で起こったことにはすべて原因があります。ある日突然大化の改新が起こったわけでもなく、ある日突然フランス革命が始まったわけでもありません。どうしてこんなことが起こったのか遡って考えると歴史は面白くなります。視点を、中央から庶民に移すだけでガラッと見え方が変わったりします。今、教科書には明治時代、大正時代、昭和時代、と年号で時代が名づけられていますが、あと何百年かすると、その時の歴史家たちがすべてひっくり返して〇〇時代、と今この時代を象徴する名前をつけてくれるはずですが、私達はその時まで生きることは不可能ですが、そう考えると時間の流れがずっと続いていることが感じられませんか。

歴史は解釈

地歴公民科 玉置将人

本を紹介してくださいと言われ、正直悩みました。

幼いころは、絵本を読むのが好きで、小学生の時は、偉人の伝記や歴史の漫画を読むのが好きでした。しかし、中学・高校と進むにつれ、読書の機会は減っていきました。私が再び読書に親しむようになったのは、大学生になってからです。大学時代、お金はないが、時間だけはたっぷりとありました。文学部で日本史学を専攻していた私は、先生や先輩からよく「本は身銭を切って買ったほうがいい」と忠告され、本にはお金を使うようにしていました。今でも専門書や興味のある本は、なるべく本屋さんで買うようにしています。

高校生のみなさんにどんな本を紹介すればよいのだろうか、いろいろと思案した結果、あえて古典的な一冊を選ぶことにしました。この本は、私が大学の授業で紹介されて読んだもので、歴史学を学ぶ者の入門書として長く読まれてきた現代でも色あせない名著です。ひと昔前に出版された本なので、文章が少し難解かもしれませんが、逆に高校生の今だからこそ、「ちょっと読みにくい」、「すぐには理解できないけど、何か大事なことが書いていそう」、そんな含蓄のある本に出会うことが大切だと思っています。新書ですぐに手に入るの、ぜひ読んでみてください。



そんな含蓄のある本に出会うことが大切だと思っています。新書ですぐに手に入るの、ぜひ読んでみてください。

E.H. カー著・清水幾太郎訳 『歴史とは何か』 岩波新書、1962年

E.H.カー（1892～1982）は、イギリス生まれの歴史家。この本は、彼が1961年、ケンブリッジ大学

で行った講演の内容を書物として出版したものです。

# 未来を創造するヒント『歴史とは何か』玉置将人

「歴史を勉強して、何の意味があるの?」、「そもそも歴史とは何なのか?」

みなさんも一度は疑問に思ったことがあるのではないのでしょうか。歴史は暗記科目だ、というイメージをもっている人も多いと思います。私も、高校生のころは、教科書に書いてあることは正しくて、それを覚えるのが歴史の勉強だと思っていました。しかし、この本は、そんな認識を改めてくれます。

この本の中で、カーが繰り返し述べている有名なフレーズが次のようなものです。

「歴史とは歴史家と事実との間の相互作用の不断の過程であり、現在と過去との間の尽きることを知らぬ対話なのであります。」 (p. 40)

「歴史」といえば、過去に起こった歴史上の事実を集めて、それを客観的に記述したものと思われがちです。あたかも唯一絶対の「正しい歴史」というものがあるかのように。しかし、カーはこのような見方は誤りだといっています。歴史には、それを記述する歴史家の「判断」や「解釈」、つまり書き手の主観が必ず入り込んでいるのです。ある一つの歴史上の事実を取り上げても、そこにはさまざまな見方があります(太平洋戦争をめぐる中国や韓国との歴史認識の違いなどもその一例です)。

身近な例だと、例えば、「大会で自分がミスをして負けてしまった」という事実があったとします。その直後は、ひどく後悔し、そのことをマイナスに捉えていたかもしれませんが、しばらく日が経つと、「あの経験があったからこそ、自分が成長できた」とプラスに捉えられるようになります。このように、同じ出来事でも「その事実をどう捉えるか」によって、歴史的事実の見方は大きく変わってきますよね。

「歴史とは解釈のことです」 (p. 29)

すなわち、歴史というのは、単なる「事実の羅列」ではなく、「事実の解釈」だということです。このように、歴史というのは、常に新しく書き換えられていくものなのです。このカーの言葉は、歴史研究について述べられたものですが、この考え方は私たちの生活にも応用できる場所があると思います。

私は、歴史を学ぶ意義の一つは、「現在の世の中をより深く理解し、未来を見通すため」であると考えています。今、目の前に起こっている問題の原因は必ず過去にあります。世界で起こっているイスラム国によるテロ行為や、北朝鮮の問題なども、すべて過去に原因があります。つまり、過去の歴史をきちんと知らない限り、現状を正しく理解することは不可能なのです。例えば、受験のときに過去問を解くことは、歴史から学んでいるということになりますよね。

ふだんの高校の歴史の授業でも、学んだことを、「今の時代に生きていく自分にどう生かせるだろうか」という態度で、自らの頭で考え続けてください。大切なのは「解釈」です。主体的な目をもって、日々の学習に取り組んでもらえたらと思っています。未来を創造するヒントはきっと歴史にあります。